

17 第二部商經学科専門科目

授業科目	情報社会論	担当者	未定
	[履修年次]	授業外対応	
	[学期] [単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	社会哲学	担当者	西原 誠司
	[履修年次]	[学期]	前期
	[単位]	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 人間とは何か／人間社会とは何かを哲学する 【概要】 現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものの見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。 【到達目標】 人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力＝自己の内面を解放する方法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 種村完司『コミュニケーションと関係の倫理』青木書店 鯉坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』(有斐閣新書)		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 第 2 回 人類社会の起源——人類 700 万年の歴史 第 3 回 日本人の起源を遡る 第 4 回 縄文社会にみる人類社会の共通原則——ひとはみんなのために、みんなはひとりのために 第 5 回 奴隷制社会にみる人間性——スパルタクスの蜂起 貴族と奴隷どちらが人間的か 第 6 回 封建社会の恋——近松門左衛門と『曽根崎心中』 第 7 回 王侯貴族の恋——『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット 第 8 回 日本の近代と明治維新——坂本龍馬にみる近代的人格の誕生 第 9 回 明治維新と日本資本主義①——産業革命の光と影 富岡製糸 第 10 回 明治維新と日本資本主義②——産業革命の光と影 あゝ野麦峠 第 11 回 現代資本主義の光と影 夫はなぜ死んだのか 過労死認定の厚い壁 第 12 回 キューブラー・ロスと終末期医療／最後のレッスン 死のまぎわの真実 第 13 回 脳梗塞からの“再生” 免疫学者・多田富雄の闘い 第 14 回 私たち抜きに私たちのことを決めないで 初期認知症を生きる 第 15 回 おわりに——言葉遊びで短所を笑おう		
成績評価の方法	授業態度 (積極的に授業に参加しているか、感想文の提出) および筆記試験		

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司				
	〔履修年次〕	1, 2, 3年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。 【概要】 経済とは、経済学の考え方（第1～2回）。ミクロ経済学の基礎的理論（第3～7回）。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回）。 【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。							
(1)テキスト	(1)	プリント						
(2)参考文献	(2)	マンキュー、N・グレゴリー（2014）『マンキュー入門経済学〔第2版〕』東洋経済新報社						
授業スケジュール	第1回	授業ガイダンス、経済とは何か						
	第2回	経済学の考え方						
	第3回	ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給						
	第4回	ミクロ経済学の基礎（2）価格決定と政府の政策						
	第5回	ミクロ経済学の基礎（3）市場の効率性						
	第6回	ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場						
	第7回	ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ						
	第8回	マクロ経済学の基礎（1）GDPの測定						
	第9回	マクロ経済学の基礎（2）インフレーションとデフレーション						
	第10回	マクロ経済学の基礎（3）経済成長						
	第11回	マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システム						
	第12回	マクロ経済学の基礎（5）マクロ経済政策の役割						
	第13回	マクロ経済学の基礎（6）外国貿易						
	第14回	マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ						
	第15回	全体のまとめ、テスト対策						
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。							
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）							
実務経験について	なし。							

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕	1,2,3 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2 単位
			〔必修／選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。			
	【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。			
	【到達目標】行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。			
(1)テキスト	(1)	プリント		
(2)参考文献	(2)	佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和5年度版）』、有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回	行政法概論	・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について	
	第 2 回	行政立法	・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について	
	第 3 回	行政行為(1)	・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について	
	第 4 回	行政行為(2)	・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羁束行為、裁量行為について	
	第 5 回	行政指導	・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について	
	第 6 回	行政上の強制執行制度	・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について	
	第 7 回	行政手続法	・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について	
	第 8 回	行政不服申立て	・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について	
	第 9 回	行政事件訴訟法(1)	・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について	
	第 10 回	行政事件訴訟法(2)	・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について	
	第 11 回	行政事件訴訟法(3)	・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について	
	第 12 回	国家賠償法(1)	・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について	
	第 13 回	国家賠償法(2)	・公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について	
	第 14 回	損失補償	・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について	
	第 15 回	公物	・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について	
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。			
実務経験について	なし			

授業科目	経済政策	担当者	岩上敏秀
	〔履修年次〕 1～3 年いずれも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。 【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで日本の経済社会を支えてきた諸制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使い、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。 【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな見方を踏まえ、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序章：経済政策とは何か 第 2 回 日本経済の構造変化と経済政策：日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか 第 3 回 経済成長を考える：経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか 第 4 回 財政再建を考える(1)：財政の現状は、財政赤字は問題なのか 第 5 回 財政再建を考える(2)：財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは 第 6 回 社会保障と雇用の将来を考える(1)：社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は 第 7 回 社会保障と雇用の将来を考える(2)：所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは 第 8 回 異次元の金融政策について考える(1)：金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は 第 9 回 異次元の金融政策について考える(2)：バブル崩壊以降の金融政策の効果は 第 10 回 環境問題を考える(1)：環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは 第 11 回 環境問題を考える(2)：環境問題と経済政策 第 12 回 地域経済を考える(1)：地方の現状は(人口減少、産業空洞化、地方の財政) 第 13 回 地域経済を考える(2)：地域経済を支える産業政策とは 第 14 回 地域経済を考える(3)：地域創生のために必要な政策とは 第 15 回 まとめ、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します		
成績評価の方法	中間レポート(40%)＋期末レポート(60%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。		

授業科目	金融論	担当者	岩上敏秀
	〔履修年次〕 1～3 年いずれも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。 【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割や業務内容、株式等の証券取引や最新のフィンテック動向まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。 【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう 第 2 回 資金循環：日本の中でお金の大きな動きについて知ろう 第 3 回 家計の貯蓄と金融資産選択：家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう 第 4 回 企業の投資と資金調達：企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう 第 5 回 金融取引の特徴と課題：金融取引の特徴について考えよう 第 6 回 金融取引と金利：金利について学ぼう 第 7 回 銀行の役割：銀行の役割や業務内容について学ぼう 第 8 回 地域金融機関の役割：鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう 第 9 回 金融市場：証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう 第 10 回 株式会社と証券市場：そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう 第 11 回 株式市場：株価はどのように決定されるのかについて考えよう 第 12 回 債券市場：債券とは何か、債券の役割について考えよう 第 13 回 日本銀行と金融政策：日本銀行の役割や金融政策について学ぼう 第 14 回 金融危機と規制：バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう 第 15 回 金融の新しい仕組み：フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう、まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。		

授業科目	社会政策		担当者	近間由幸				
	〔履修年次〕	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応（要予約）				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について 【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。 【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	プリント						
	(2)	石畑良太郎・牧野富夫・佐賀一道編『よくわかる社会政策〈第3版〉雇用と社会保障』ミネルヴァ書房						
授業スケジュール	第 1 回	イントロダクションー日本社会の「しくみ」について						
	第 2 回	社会政策とはなにか						
	第 3 回	賃金と社会政策						
	第 4 回	企業と労働組合の関係						
	第 5 回	過労死と長時間労働						
	第 6 回	非正規雇用とは何か						
	第 7 回	日本社会における入社のしくみと若者支援政策						
	第 8 回	日本型雇用システムと女性の働き方						
	第 9 回	子育てと雇用政策						
	第 10 回	高齢者の福祉と雇用						
	第 11 回	働けないときにどのような支援があるのか						
	第 12 回	社会保険と生活保護の溝						
	第 13 回	労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として						
	第 14 回	移民問題と外国人労働者						
	第 15 回	全体のまとめ						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、筆記試験（70%）							
実務経験について	なし							

授業科目	民法		担当者	疋田京子				
	〔履修年次〕	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応（メールで予約）				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】消費者問題、労働問題、企業の取引から結婚や離婚、相続問題にいたるまで、個々の紛争解決のための法的基準になる民法を理解する。 【概要】民法は契約や不法行為など「財産法」の部分と、夫婦、親子、親族、相続などに関する「家族法」の部分に分かれます。講義では「財産法」が中心になりますが、様々な取引の権利・義務の主体として「人」が登場する時、夫婦や親子関係も無縁ではありません。 【到達目標】 具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係としてとらえ、法的に説得力のある主張ができるようになることを目指します。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	プリントを配布する						
	(2)	授業内で適宜指示する						
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：「民法」が対象とする紛争とは？						
	第 2 回	民法の基本構造：民法のなかで中心になる権利～物権と債権						
	第 3 回	権利の主体となる能力（1）：権利能力・意思能力・行為能力						
	第 4 回	権利の主体となる能力（2）：制限行為能力者の保護と取引の安全						
	第 5 回	契約の成立とその効力（1）：強行規定と任意規定						
	第 6 回	契約の成立とその効力（2）：条件と期限がついた契約						
	第 7 回	契約の成立とその効力（3）：民法上の「代理」とは						
	第 8 回	契約の成立とその効力（4）：無権代理と有権代理						
	第 9 回	契約の拘束力から解放されるとき（1）：言ったことと本心が違う場合						
	第 10 回	契約の拘束力から解放されるとき（2）：詐欺や強迫によって契約をしてしまったとき						
	第 11 回	法の世界の「善意と悪意」：信義誠実の原則と善意の第三者						
	第 12 回	民法の「時効制度」：権利の上に眠る者は保護しないのが民法						
	第 13 回	物権の変動時期（1）：動産の取得取得と不動産の対抗要件						
	第 14 回	物権の変動時期（2）：公信力って何？						
	第 15 回	まとめ						
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとすること							
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80％）、毎講義ごとのミニレポート（20％）							
実務経験について								

授業科目	商法		担当者	河野 総史	
	〔履修年次〕	1 年、2 年、3 年	授業外対応	講義終了後またはメールで対応	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	
			〔必修／選択〕	選択	
				〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】				
	商法学のうち、会社法の基礎知識				
	【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。				
	【到達目標】				
	株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。				
(1)テキスト	(1)	指定しない（レジュメを配布する）			
(2)参考文献	(2)	適宜指示する			
授業スケジュール	第 1 回	講義ガイダンス 民法と商法			
	第 2 回	会社法総論			
	第 3 回	会社の種類			
	第 4 回	株式①（株式の種類等）			
	第 5 回	株式②（株式の譲渡と譲渡制限）			
	第 6 回	株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）			
	第 7 回	株式④（株式併合・分割・無償割当等）			
	第 8 回	資金調達①（会社設立時）			
	第 9 回	資金調達②（募集株式の発行等）			
	第 10 回	資金調達③（株式以外の資金調達手段）			
	第 11 回	機関①（機関総論）			
	第 12 回	機関②（株主総会）			
	第 13 回	機関③（取締役・取締役会）			
	第 14 回	機関④（監査役・会計参与・会計監査人）			
	第 15 回	機関⑤（指名委員会等設置会社・監査当委員会設置会社）			
授業外学習(予習・復習)	復讐を徹底して、小テストに備えること				
成績評価の方法	期末テスト 80%小テスト 20% 全体で 60%以上を合格とする				
実務経験について	なし				

授業科目	産業心理学		担当者	岡村俊彦				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。 【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。							
(1)テキスト	(1)	プリントを配布、Web でも公開						
(2)参考文献	(2)	なし						
授業スケジュール	第 1 回	概要説明						
	第 2 回	人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質						
	第 3 回	記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用						
	第 4 回	ヒューマンインターフェイス 1：ヒューマンインターフェイスの基本原則						
	第 5 回	ヒューマンインターフェイス 2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介						
	第 6 回	職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策						
	第 7 回	仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類						
	第 8 回	人間関係、労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係						
	第 9 回	ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例						
	第 10 回	広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム						
	第 11 回	購買心理：消費者の購買心理						
	第 12 回	販売、印象管理：セールステクニックと印章管理						
	第 13 回	人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策						
	第 14 回	こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察						
	第 15 回	まとめ						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%、授業ごとのリアクションペーパーが 20%							
実務経験について	なし							

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一				
	〔履修年次〕	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】 会計学の全体像を知る。 【概要】 この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。 【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』(第3版) 同文館出版。 (2) 桜井久勝『財務会計講義』(第22版) 中央経済社、その他は講義中に指示します。							
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス、会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要 第 2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割 第 3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要 第 4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要 第 5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要 第 6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要 第 7回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要 第 8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要 第 9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要 第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要 第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要 第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR 会計の概要 第13回 ボランティア活動にも儲けが必要なの？ 非営利会計の概要 第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要 第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。							
成績評価の方法	期末レポート (100%)							
実務経験について	なし							

*講義担当者のコロナ対応、出張などで、遠隔授業（オンデマンド形式）などを用いる場合がある。

授業科目	簿記論I		担当者	岡村雄輝		
	〔履修年次〕 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応		
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2 単位	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕	講義方式	
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ 【概要】日商簿記 3 級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通して複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論IIと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。 【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘，片山寛，北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』（令和5年版），中央経済社。 (2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』（第6版），中央経済社。					
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録の確認，講義概要の説明 第 2 回 仕訳と転記：勘定，取引の意義と種類，取引 8 要素と結合関係 第 3 回 仕訳帳と元帳：帳簿の種類，仕訳帳への記入，総勘定元帳への転記 第 4 回 決算：帳簿の締切りと財務諸表の作成，決算手続と精算表 第 5 回 現金と預金：現金勘定と現金出納帳，現金過不足，当座預金と当座借越 第 6 回 繰越商品・仕入・売上：3 分法，諸掛と返品 第 7 回 売掛金と買掛金：売掛金と買掛金の意義，人名勘定，売掛金と元帳と買掛金元帳 第 8 回 その他の債権と債務：貸付金と借入金，未収入金と未払金，立替金と預り金 第 9 回 受取手形と支払手形：手形の振出しと受入れ，受取手形記入帳と支払手形記入帳，電子記録債権と債務 第 10 回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れとは？，貸倒引当金の設定 第 11 回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い 第 12 回 税金：租税公課，法人税，住民税及び事業税，消費税 第 13 回 財務諸表：決算手続，試算表作成，棚卸表の作成と決算整理事項 第 14 回 総合問題：問題演習と解説① 第 15 回 総合問題：問題演習と解説③					
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできませんようになりません。					
成績評価の方法	期末テスト 100%					
実務経験について	なし					

授業科目	経営学総論	担当者	竹中啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3 年いずれも可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6 回 企業における 4 つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。 第 7 回 企業における 4 つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。 第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定） 第 9 回 企業における 4 つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。 第 10 回 企業における 4 つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。 第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。 第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は 1 回目の講義で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村俊彦
	〔履修年次〕 指定なし 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習	授業外対応	講義前後に適宜対応
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ 【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切な IT 活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の 3 分の 1 程度の時間を使い、IT に関する学生からの質問に対する解説をおこなう。 【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を 80% 以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布、Web でも公開 (2) 初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第 1 回 概要説明 第 2 回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第 3 回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第 4 回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度 第 5 回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第 6 回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第 7 回 IT セキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策 第 8 回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性 第 9 回 周辺機器 1：モニタ、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み 第 10 回 周辺機器 2：プリンタ、デジカメなど周辺機器の役割、仕組み 第 11 回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第 12 回 Web3、クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第 13 回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方 第 14 回 AI と DX、インターネットの国際比較：AI と DX の基本知識、とインターネット利用の国際比較 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通通常のレポート 2 回分が 80%、授業ごとのリアクションペーパーが 20%		
実務経験について	なし		

授業科目	文書作成実習（第二部）		担当者	永仮ゆかり				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	【テーマ】							
	『Microsoft Word』を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得							
	【概要】							
	『Microsoft Word』を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。							
	【到達目標】							
	実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得） ＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする							
(1)テキスト	(1)	富士通エフ・オー・エム（株）『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版						
(2)参考文献	(2)	富士通エフ・オー・エム（株）『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版 ほか授業にて紹介する						
授業スケジュール	第 1 回	前期の復習	：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）					
	第 2 回	検定対策（3 級）	：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）					
	第 3 回	検定対策（3 級）	：課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）					
	第 4 回	検定対策（3 級）	：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）					
	第 5 回	検定対策（3 級）	：報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）					
	第 6 回	検定対策（3 級）	：通知状の作成、知識問題（共通分野）					
	第 7 回	検定対策（3 級）	：課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）					
	第 8 回	検定対策（3 級）	：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）					
	第 9 回	検定対策（3 級）	：文書作成 3 級検定模擬問題演習					
	第 10 回	Excel データの利用	：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み					
	第 11 回	文書の編集	：いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）					
	第 12 回	報告書の作成	：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）					
	第 13 回	稟議書の作成	：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）					
	第 14 回	議事録の作成	：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）					
	第 15 回	まとめ						
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、『Microsoft Word』操作の復習など適宜指示							
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業中に実施する課題（30%）							
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師							

授業科目	統計学		担当者	倉重賢治		
	〔履修年次〕	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】					
	基本的な統計解析を学ぶ					
	【概要】					
	現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。					
	【到達目標】					
	・ 基本的なデータ処理を行う					
	・ 相関関係について理解する					
	・ 検定について理解する					
(1)テキスト	(1)	プリント				
(2)参考文献	(2)	木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク				
授業スケジュール	第 1 回	序論：統計学とは				
	第 2 回	データの基本処理：平均値、度数分布				
	第 3 回	データの基本処理：標準正規分布				
	第 4 回	データの基本処理：正規分布				
	第 5 回	データの基本処理：正規分布と偏差値				
	第 6 回	データの基本処理：確率分布				
	第 7 回	統計解析：相関係数				
	第 8 回	統計解析：回帰直線				
	第 9 回	統計解析：カイ 2 乗検定				
	第 10 回	統計解析：平均値の推定				
	第 11 回	統計解析：平均値の検定				
	第 12 回	統計解析：比率の推定と検定				
	第 13 回	統計解析：ベイズ統計学				
	第 14 回	統計解析：分散分析				
	第 15 回	まとめ				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業中の課題（20%）＋期末試験（80%）					
実務経験について	なし					

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村俊彦				
	〔履修年次〕	2,3 年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。 【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	Web で公開						
	(2)	なし						
授業スケジュール	第 1 回 概要説明 第 2 回 自己紹介文書作成 1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3 回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4 回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5 回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6 回 ホームページ作成 1： HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7 回 ホームページ作成 2：課題設定とページ作成 第 8 回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9 回 ホームページ作成 4：ページ公開 第 10 回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11 回 提案書作成 2：表計算ソフトを使った自動計算書 第 12 回 提案書作成 3：プレゼン資料の作成 第 13 回 提案書作成 4：仕上げ，データ送信のコツ 第 14 回 提案書作成 5：プレゼンと評価 第 15 回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	レポート（3つの課題を総合的に評価）							
実務経験について	なし							

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇淳子				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】							
	表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用							
	【概要】							
	表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。							
	【到達目標】							
	表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。							
	(1)テキスト	(1)	実教出版編修部	30 時間でマスター	Excel2021 (Windows11 対応)	実教出版株式会社		
	(2)参考文献	(2)						
授業スケジュール	第 1 回	Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認						
	第 2 回	簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認						
	第 3 回	編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用						
	第 4 回	編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線						
	第 5 回	データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）						
	第 6 回	データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）						
	第 7 回	データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）						
	第 8 回	各関数を利用した実習問題（小テスト）						
	第 9 回	棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）						
	第10 回	円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）						
	第11 回	複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）						
	第12 回	データベース入門：データベース作成上の各機能						
	第13 回	データの集計（並べ替え・抽出 ほか）						
	第14 回	データの集計（ピボットテーブル）						
	第15 回	前期のまとめ						
	授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。						
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）							
実務経験について	企業、個人への講習会講師							

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇淳子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				演習
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする			
(1)テキスト	(1)	実教出版編修部	30時間でマスター	Excel2021 (Windows11 対応)
(2)参考文献	(2)	プリント		実教出版株式会社
授業スケジュール	第1回 前期授業の復習 第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題 第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題 第4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題 第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題 第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題 第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題 第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題 第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題 第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題 第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題 第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題 第14回 検定対策問題：集計データをグループ化化する問題 知識科目問題 第15回 後期のまとめ 知識科目問題			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習（A）		担当者	上野 祐子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				実習
テーマ及び概要	【テーマ】 様々なアプリケーションソフトを使ってみよう 【概要】 事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。 【到達目標】 各アプリケーションで課題を完成させる。			
(1)テキスト	(1)	適宜プリントを配布する。		
(2)参考文献	(2)	授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、ホームページ作成（HTML：見出し、画像、箇条書き、ハイパーリンク、表） 第2回 ホームページ作成2（HTML：段落、水平線、地図、動画） 第3回 ホームページ作成3（CSS：Webページのデザイン設定、鑑賞会） 第1回課題 第4回 プログラミング（Scratch） 第5回 プログラミング2（Scratch） 第6回 プログラミング3（言語は受講者の希望により決定する） 第2回課題 第7回 動画編集（フォト：起動、トリミング、テキスト入りビデオの作成、素材の収集） 第8回 動画編集2（フォト：描画、クリップの速度、音楽、3D効果） 第9回 動画編集3（フォト：タイトル、鑑賞会） 第3回課題 第10回 データベース（Excelのデータベース機能） 第11回 データベース2（Microsoft Access：テーブル、クエリ） 第12回 データベース3（Microsoft Access：テーブル、クエリ、フォーム） 第4回課題 第13回 PDF編集（Adobe Acrobat Reader：PDFの作成と閲覧） 第14回 PDF編集2（Adobe Acrobat Reader：PDF編集） 第15回 PDF編集3（Adobe Acrobat Pro：画像やファイルでPDF資料作成、鑑賞会） 第5回課題			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5回の課題（80%）と期末レポート（20%）の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	PC アプリケーション実習 (B)		担当者	上野 祐子
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応		講義終了時、適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1 単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 実習
テーマ及び概要	【テーマ】 様々なアプリケーションソフトを使ってみよう 【概要】 事務系の職に就いても、プログラミングや PDF 編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。 【到達目標】 各アプリケーションで課題を完成させる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。			
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML : 見出し、画像、箇条書き、ハイパーリンク、表) 第 2 回 ホームページ作成 2 (HTML : 段落、水平線、地図、動画) 第 3 回 ホームページ作成 3 (CSS : Web ページのデザイン設定、鑑賞会) 第 1 回課題 第 4 回 プログラミング (Scratch) 第 5 回 プログラミング 2 (Scratch) 第 6 回 プログラミング 3 (言語は受講者の希望により決定する) 第 2 回課題 第 7 回 動画編集 (フォト : 起動、トリミング、テキスト入りビデオの作成、素材の収集) 第 8 回 動画編集 2 (フォト : 描画、クリップの速度、音楽、3D 効果) 第 9 回 動画編集 3 (フォト : タイトル、鑑賞会) 第 3 回課題 第 10 回 データベース (Excel のデータベース機能) 第 11 回 データベース 2 (Microsoft Access : テーブル、クエリ) 第 12 回 データベース 3 (Microsoft Access : テーブル、クエリ、フォーム) 第 4 回課題 第 13 回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader : PDF の作成と閲覧) 第 14 回 PDF 編集 2 (Adobe Acrobat Reader : PDF 編集) 第 15 回 PDF 編集 3 (Adobe Acrobat Pro : 画像やファイルで PDF 資料作成、鑑賞会) 第 5 回課題			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5 回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること 【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。 【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 日本の産業政策の歴史 戦前(1): 資本主義社会とはどんな社会か等 第 3 回 日本の産業政策の歴史 戦前(2): 明治維新の意義, その後の産業構造の変化等 第 4 回 敗戦直後の日本経済: 敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950 年代前半の産業政策等 第 5 回 高度成長の開始: 高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6 回 行政指導: 勸告操短, 企業の反発等 第 7 回 開放経済体制への移行: IMF8 条国への移行, 産業再編等 第 8 回 1970 年代の日本経済: 2 度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9 回 企業集団とその変化: 戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等 第 10 回 1980 年代以降の日本経済: 対米貿易摩擦, 日米構造協議等 第 11 回 現在の産業政策: 産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等 第 12 回 グローバル化と構造改革への動き: プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等 第 13 回 構造改革: 構造改革の特徴・本質等 第 14 回 構造改革とアベノミクス: 構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	〔授業形態〕 講義		
	【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること 【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「結節点」(つなぎ目)の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。 【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等 第 5 回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等 第 6 回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等 第 7 回 経費(2): 小さな政府論とサブライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等 第 11 回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等 第 13 回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	農業経済論	担当者	
	〔履修年次〕	授業外対応	
	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	経済学史	担当者	カムチャイ ライサミ
	〔履修年次〕 1 年、2 年、3 年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修／選択〕 選択
テーマ及び概要	【テーマ】 経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。 【概要】 経済学の時代的要請と経済学者の人となり 経済学の黎明期前後（17 世紀頃）から現代経済学（20 世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。 【到達目標】 経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。 (2) 必要に応じて、その都度指示する。		
授業スケジュール	第 1 回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表 第 2 回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート 第 3 回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー 第 4 回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム 第 5 回 古典学派の生成：スミス 第 6 回 古典学派の発展：マルサス、リカード 第 7 回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル 第 8 回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース 第 9 回 マルクス学派：マルクス 第 10 回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュピュイ 第 11 回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ 第 12 回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク 第 13 回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート 第 14 回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー 第 15 回 ケインズ革命：ケインズ		
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で 4 時間程度の予習・復習を行うこと。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	経済学特講	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1、2、3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。 【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。 【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	国際経済論	担当者	西原 誠司
	〔履修年次〕 1、2、3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	メール・Lineで連絡。
テーマ及び概要	【テーマ】 Love & Peace の経済学——国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える 【概要】 ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、500万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの理由を、グローバル化した経済に求め、9・11以後多発するテロをなくす条件を考える。 【到達目標】 グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西原誠司『グローバルイゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年） (2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年） 西原誠司『グローバルイゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）		
授業スケジュール	第1回 はじめに——アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために 第2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争——19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い 第3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化 第4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場 第5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理 第6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合 第7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機 第8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして 第9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合 第10回 最後の帝国主義アメリカ ①——ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立 第11回 最後の帝国主義アメリカ ②——多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北 第12回 最後の帝国主義アメリカ ③——米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」 第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界——モダニズム・トルコの挑戦と苦悩 第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割 第15回 おわりに——杉原千畝の生き方に学ぶ		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。		
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。		

授業科目	アジア経済論		担当者	山本 一哉
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		授業外対応	講義終了時（メールでは即時）
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ 【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。 【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する）。 (2) レジュメに記載する。			
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンスー本講義の概要と進め方について 第 2 回 日本の経済発展ー戦後の高度経済成長 第 3 回 東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾 第 4 回 東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール 第 5 回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア 第 6 回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア 第 7 回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展 第 8 回 国際的な資本移動とアジア通貨危機ー東南アジア・韓国 第 9 回 中国の「改革開放」戦略と経済発展 第10回 中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換と産業集積 第11回 中国人民元改革ー為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化 第12回 中国の貿易・直接投資の拡大ー一帯一路戦略・米国との通商摩擦 第13回 南アジア諸国の経済発展ーインド、パキスタン、バングラデシュ 第14回 アジア域内の相互依存の深化ー市場メカニズムと FTA による経済統合 第15回 日本とアジア諸国の貿易及び直接投資			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験（100%）			
実務経験について	なし			

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概 要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】 国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)使用しない。 (2)原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：核兵器について 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバルゼーションと貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13 回 国際社会における諸問題 4：保守化する世界 第 14 回 国際社会における諸問題 5：グローバルガバナンス 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（80%）、授業への参加態度（20%）によって評価する。		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは, 地理, 歴史, 言語, 文化, 宗教, 民族など, すべての面において多様である。本講義では, 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも, 「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化, 現代においては脱植民地化, 国民国家建設, リージョナリズム (地域主義) の形成という共通性がある。また, 最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し, 分析する。 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2：植民地のようす 第5回 歴史的形成3：植民地からの独立 第6回 歴史的形成4：脱植民地化, 国民国家建設, 開発 第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア 第8回 東南アジア1：インドシナ三国 第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響 第10回 東南アジア3：タイ, ミャンマー, マレーシア 第11回 東南アジア4：メコン河流域開発 第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成 第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1 第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (80%), 授業への参加態度 (20%) によって評価する。		

授業科目	ヨーロッパ経済事情	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1年, 2年, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	メール等で適宜対応
テーマ及び概要	【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する 【概要】ヨーロッパ地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に今期は直近の新型コロナウイルス・ウクライナ侵攻による地政学的リスクが深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。 【到達目標】ヨーロッパ地域統合 (EU) の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第6版』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか		
授業スケジュール	第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか (ロシアのウクライナ侵攻と世界経済) 第2回 ヨーロッパ統合前史 第3回 ヨーロッパ統合の歴史 第4回 統一通貨ユーロとは 第5回 環境・エネルギー課題とEU財政諸問題 第6回 EU社会が抱える地政学的課題 第7回 BREXIT後のイギリスの将来 第8回 フランスとEU経済 第9回 ドイツとEU経済 第10回 その他諸国とEU経済 第11回 中・東欧諸国とEU経済 第12回 EUと対外通商政策 第13回 欧州通貨と国際金融システム 第14回 ヨーロッパ社会とEUの将来 第15回 講義のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習・復習し授業中に質問・意見交換すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		
実務経験について	地域金融機関での貿易取引等外国為替業務の知識・海外経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す。		

授業科目	地域経済論	担当者	
	[履修年次]	授業外対応	
	[学期] [単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第10 回 第11 回 第12 回 第13 回 第14 回 第15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地域産業政策	担当者	
	[履修年次]	授業外対応	
	[学期] [単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第10 回 第11 回 第12 回 第13 回 第14 回 第15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかも しませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地方自治, 地方行財政に関する基本的な概念や理論, 日本の制度の内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること 【概要】地方自治とは何か, 日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて, 地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論, 制度について講義するとともに, 参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます。また, グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。 【到達目標】①日本の地方自治・地方行財政制度について理解し, 説明できるようになること ②地方自治体の活動について主体的に考察し, 判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し, その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること		
(1)テキスト	(1) なし		
(2)参考文献	(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 地方自治(1): 定義, 地方自治が求められる根拠, 地方自治の意義等 第 3 回 地方自治(2): グローバル化の影響等 第 4 回 地方自治体の意思決定(1): 国と地方公共団体の関係, 首長・役所・議会の関係等 第 5 回 地方自治体の意思決定(2): 地方の予算制度, 長の強い権限等 第 6 回 地方自治体の財源(1): 歳入の自治と三位一体の改革, 地方債等 第 7 回 地方財政健全化法(1): 地方財政健全化法, 地方債改革との関係等 第 8 回 地方財政健全化法(2): 法律成立の背景, 地方自治への影響等 第 9 回 地方自治体の財源(2): 地方交付税, 国庫支出金, 問題点等 第 10 回 法定外税(1): 法定外税の定義, 地方分権一括法での変更点, 現在の傾向等 第 11 回 法定外税(2): 受益・原因と負担の関係, 利点と問題点等 第 12 回 市町村合併: 「平成の大合併」とその背景, 望ましい合併とは, 現在の状況等 第 13 回 市民参加・参画: 歴史, 求められている背景, 参考事例の紹介等 第 14 回 住民自治: シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い)記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	高齢者福祉	担当者	田口康明
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	メールで連絡、随時対応
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。 【概要】本科目は、本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。 【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につくる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小竹雅子『総介護社会——介護保険から問い直す(岩波新書)』 (2) 授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス この授業のすすめ方 第2回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策 第3回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義 第4回 (発表) テキスト「序章：介護問題の社会化」 第5回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その1 第6回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その2 第7回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その1 第8回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その2 第9回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その1 第10回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その2 第11回 (発表) テキスト「第4章 介護保険の使い方」 第12回 (発表) テキスト「第5章 介護保険にかかる金」 第13回 (発表) テキスト「第6章 なぜ、サービスは使いつらいのか」 第14回 (発表) テキスト「第7章 介護保険を問い直すガイダンス」 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	テキストの各回の箇所を十分読むこと／各回のテキストの指定部分を事前に熟読する		
成績評価の方法	授業中の発表 60%, 授業中の発言 20% ファイナルレポート 20%		

授業科目	労働法	担当者	足田京子
	〔履修年次〕 1, 2年, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応 (メールで予約)
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】ディーセントワーク (人間らしい働き方) を実現するための基礎知識 【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また正規と非正規の格差の拡大。こうした日本の職場に根強い雇用慣行は、どのような法制度のなかで起こったのか。「働き方改革」のための法整備によって、職場はどのように変わろうとしているのだろうか。 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：労働法を知る大切さ 第 2 回 労働法の全体像：憲法—民法—労働法の関係 第 3 回 労働契約：自分の労働条件を知らないとななる？ 第 4 回 内定辞退と内定取り消し：「内定」の法的性格 第 5 回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？ 第 6 回 労働時間に関するルール (1)：所定労働時間と法定労働時間の違い 第 7 回 労働時間に関するルール (2)：時間外労働・休日労働・深夜労働とは？ 第 8 回 「各種保険完備」とは？：バイトのケガは自己責任？ 第 9 回 有給休暇は権利です：アルバイトにも有給級はある 第10回 労働契約終了のパターン：「辞める」と「辞めさせられる」の違い 第11回 働くことは人権です：産前・産後休業と育児・介護休業 第12回 募集採用に関する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？ 第13回 労働時間に関する応用問題：変形労働時間制と裁量労働制 第14回 賃金に関する応用問題：残業代込み、出来高制、休業補償制度 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。		
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%) 授業ごとのミニレポート		
実務経験について			

授業科目	国際経済特講		担当者	村田 秀博
	〔履修年次〕 1、2、3年生		授業外対応	授業終了後 E メールにて
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出事例、それに伴う貿易取引 キーワード：鹿児島県内企業も数多く海外業務を行っている。資料 DVD サンプル多用のわかりやすい授業 【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。			
	【到達目標】地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた独自の解決方法を見出す。 県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。			
(1)テキスト	(1)	レジュメ・プリント資料		
(2)参考文献	(2)	海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか		
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材）		
	第 2 回	鹿児島県内中小企業の国際化の現状		
	第 3 回	進出国の情勢比較（中国）		
	第 4 回	進出国の情勢比較（中国）		
	第 5 回	海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など）		
	第 6 回	県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致		
	第 7 回	進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ）		
	第 8 回	進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ）		
	第 9 回	進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）		
	第 10 回	進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか）		
	第 11 回	貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか）		
	第 12 回	貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約）		
	第 13 回	貿易実務（外貨預金・外貨貸付）		
	第 14 回	貿易実務（輸出・輸入）		
	第 15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	筆記試験 50%＋レポート 50%			
実務経験について	金融機関にて国際業務に 23 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画開催。タイ王国赴任経験あり。			

授業科目	地域研究特講		担当者	山本晃正			
	〔履修年次〕	1 年, 2 年, 3 年	授業外対応	講義終了後			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】消費者をめぐる法律問題の諸相						
	【概要】様々な手口の悪徳商法や詐欺的商法の手口とその規制、危険な製品による被害の賠償、投機的取引の規制、サラ金の規制、公正な競争や表示の規制など、消費者に係わる取引をめぐる様々な法律問題を、消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として、最新の法律改正も交えながら、できるだけ具体的事例を取り上げながら分かりやすく解説し、考えていく。						
	【到達目標】 消費者がどのような状態に置かれており、どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し、その上で、消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。						
(1)テキスト	(1)杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは〔第3版〕』法律文化社						
(2)参考文献	(2)						
授業スケジュール	第 1 回	消費者と契約：イントロダクション（最近の消費者被害の動向、悪徳商法のターゲットと手口など）					
	第 2 回	消費者と契約：契約の諸原則と近代市民法、契約の拘束力からの離脱、消費者契約法（目的・対象・取消権）					
	第 3 回	消費者と契約：消費者契約法（取消権、不当条項の無効、消費者団体訴訟制度）、電子消費者契約法					
	第 4 回	消費者と契約：特定商取引法（規制対象の解説、訪問販売・電話勧誘販売等に対する行政的取締りの諸規制）					
	第 5 回	消費者と契約：特定商取引法（民事上の諸権利クーリング・オフ、中途解約権など）					
	第 6 回	消費者と契約：復習のための模擬演習（第 1 回／消費者と契約）					
	第 7 回	消費者と安全：製造物責任法（目的、製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由）					
	第 8 回	消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など					
	第 9 回	消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん）					
	第 10 回	消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制）と金融商品販売法					
	第 11 回	消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（競争政策の意味、カルテル禁止と灯油裁判、共同の取引拒絶など）					
	第 12 回	消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（差別対価、不当廉売、抱合せ販売、再販売価格の拘束）					
	第 13 回	消費者と表示・景品提供規制：景品表示法（不当表示の規制）					
	第 14 回	消費者と表示・景品提供規制：景品表示法（過大な景品提供の規制）					
	第 15 回	まとめ：消費者基本法と消費者の諸権利、復習のための模擬演習（第 2 回／製造物責任・消費者信用取引ほか）					
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当ページを読み、配付資料も利用して、予習と復習を行って下さい。						
成績評価の方法	筆記試験						
実務経験について	なし						

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1,2,3 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2 単位	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。		
	【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。		
	【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和5年度版）』、有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回	地方自治の意義	・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について
	第 2 回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素（住民、区域、法人格）、都道府県、について
	第 3 回	地方公共団体の区域・事務	・区域、機関委任事務、法手受託事務について
	第 4 回	住民の権利義務(1)	・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について
	第 5 回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求、議員、長の解職請求、住民監査請求について
	第 6 回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について
	第 7 回	条例と規則(2)	・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について
	第 8 回	議会(1)	・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について
	第 9 回	議会(2)	・定例会、臨時会、会議公開の原則、会期不継続の原則について
	第 10 回	執行機関(1)	・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について
	第 11 回	執行機関(2)	・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について
	第 12 回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について
	第 13 回	長と議会との関係(1)	・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について
	第 14 回	長と議会との関係(2)	・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について
	第 15 回	予算	・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について
	授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。	
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村雄輝			
	〔履修年次〕 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ 【概要】日商簿記 3 級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。 【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子（編）『新検定 簿記講義3 級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』（令和5 年版）、中央経済社。 (2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』（第6 版）、中央経済社。						
授業スケジュール	第 1 回 簿記とは？：簿記の意義、目的、財務諸表 第 2 回 仕訳と転記：仕訳の意義、勘定への転記 第 3 回 決算：決算の意義と手続、試算表作成 第 4 回 決算：帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表 第 5 回 現金と預金：当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金 第 6 回 繰越商品・仕入・売上：仕入帳と売上帳、商品有高帳 第 7 回 売掛金と買掛金：売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金 第 8 回 その他の債権と債務：仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証建 第 9 回 有形固定資産：有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算 第10 回 資本：株式会社の設立と株 s 期の発行、繰越利益剰余金、配当 第11 回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品 第12 回 伝票：仕訳帳と伝票、 3 伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計 第13 回 財務諸表：精算表の作成、財務諸表の作成 第14 回 総合問題：問題演習と解説② 第15 回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。						
成績評価の方法	期末テスト 100%						
実務経験について	なし						

授業科目	経営管理論	担当者	竹中啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2 単位	〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第 3 回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第 4 回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第 5 回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第 6 回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第 7 回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第 8 回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。 第 9 回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。 第10回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。 第11回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。 第12回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。 第13回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。 第14回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	経営組織論	担当者	近間由幸
	〔履修年次〕 1,2,3 年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2 単位	〔必修/選択〕 選択
テーマ及び概要	【テーマ】経営組織論における個人と組織の関係性について 【概要】経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。 【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織のモデルが、授業で扱うもののうちどれに近いのかを、自らの経験に照らし合わせて考えていけることを到達目標としている。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 田尾雅夫編『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房		
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション—いろいろな組織の捉え方 第 2 回 組織論における人間モデル 第 3 回 ワーク・モチベーションとその理論 第 4 回 個人と組織のかかわり合い—モチベーション、コミットメント、キャリア 第 5 回 集団の機能と組織 第 6 回 組織におけるリーダーシップ 第 7 回 組織文化 第 8 回 経営組織の設計 第 9 回 官僚制組織とネットワーク組織 第10回 変動する環境における組織 第11回 戦略と組織学習 第12回 イノベーションと組織 第13回 ダイバーシティ・マネジメントと組織の課題 第14回 経営組織の動態化と組織変革 第15回 全体のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）		
実務経験について	なし		

授業科目	労務管理論		担当者	近間由幸
	〔履修年次〕	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2 単位
テーマ及び概要	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
	【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について 【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に 応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを 解説する。 【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業 に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。			
	(1)テキスト	(1)	プリント	
授業スケジュール	(2)参考文献	(2)	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣アルマ	
	第 1 回	イントロダクションー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について		
	第 2 回	労務管理とはなにか		
授業外学習(予習・復習)	第 3 回	雇用管理制度のしくみ		
	第 4 回	組織構造と職務内容		
	第 5 回	キャリア開発のしくみ		
成績評価の方法	第 6 回	賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか		
	第 7 回	賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給		
	第 8 回	人事評価制度のしくみ		
実務経験について	第 9 回	福利厚生制度のしくみ		
	第 10 回	労働時間管理のしくみ		
	第 11 回	日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理		
	第 12 回	ダイバーシティ・マネジメント		
	第 13 回	労務管理と労働組合		
	第 14 回	労務管理の国際比較		
	第 15 回	全体のまとめ		
	授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
	成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)		
	実務経験について	なし		

授業科目	管理会計論		担当者	福田 正彦
	〔履修年次〕	1 年 2 年 3 年	授業外対応	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
テーマ及び概要	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
	【テーマ】 経営者、幹部、経理の立場から、企業の利益を増大するための合理的な意思決定や管理方法を学ぶ。 【概要】 実務経験に基づく、管理会計のノウハウを講義するとともに、学生が作成した事業計画を発表する。 【到達目標】 管理会計の基礎の考え方、ノウハウを理解し、社会で適用できる能力を身に付ける。			
	(1)テキスト	(1)	教員が配布する。	
授業スケジュール	(2)参考文献	(2)	『管理会計の基本』がすべてわかる本』 金子智朗著 (2009) 秀和システム	
	第 1 回	オリエンテーション、原価の性格		
	第 2 回	事業計画の作成 (発表課題)		
授業外学習(予習・復習)	第 3 回	短期的意思決定 1 (広告宣伝や値引きで利益をあげる)		
	第 4 回	短期的意思決定 2 (管理会計の意思決定)		
	第 5 回	アウトソーシング、追加受注		
成績評価の方法	第 6 回	商品別の利益管理		
	第 7 回	事業部の利益管理		
	第 8 回	中間試験		
実務経験について	第 9 回	長期的意思決定 1 (キャッシュフロー、NPV)		
	第 10 回	長期的意思決定 2 (IRR、回収期間)		
	第 11 回	予算管理		
	第 12 回	予算と実績との差異分析		
	第 13 回	コストコントロール 1 (重要性と ABC)		
	第 14 回	コストコントロール 2 (原価企画)		
	第 15 回	まとめ		
	授業外学習(予習・復習)	管理会計は積み重ねの科目であり、毎回復習し、次の授業に参加すること。		
	成績評価の方法	中間試験、期末試験、発表それぞれ 1/3 の比重で評価する。さらに発言点も加える。		
	実務経験について	入社から定年退職まで約 37 年間、日産自動車 (株) にて海外営業、開発部門の経理の実務経験を持つ。		

授業科目	国際経営論		担当者	松本 俊哉
	〔履修年次〕 1年2年3年		授業外対応	授業終了時および随時メールで対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】多国籍企業のグローバル価値連鎖と社会的責任 【概要】国際生産をおこなう主要産業における多国籍企業の「グローバル価値連鎖」（事業の世界的な分散と統合）に注目し国際経営の現状と課題について考察する。また、大企業の社会的責任について私たちの生活との関係も視野に入れて考える。 【到達目標】多国籍企業の経営戦略が作り出す競争優位を具体的な事例をもとに理解する。また、そうした国際経営のあり方が国民経済や労働者、環境などに及ぼす影響について理解する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定（資料を配付する予定） (2) 授業のなかで紹介する。			
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（講義の目的、進め方、成績評価の方法など） 第 2 回 多国籍企業の経営（1）直接投資とプロダクトライフサイクル 第 3 回 多国籍企業の経営（2）内部化と企業内貿易、外部化とアライアンス 第 4 回 自動車産業のグローバル価値連鎖（1）産業の歴史と構造 第 5 回 自動車産業のグローバル価値連鎖（2）グローバル化 第 6 回 自動車産業のグローバル価値連鎖（3）次世代自動車・CASE 第 7 回 電機・電子産業のグローバル価値連鎖（1）産業の歴史と構造 第 8 回 電機・電子産業のグローバル価値連鎖（2）ファブレス/ファウンドリ 第 9 回 電機・電子産業のグローバル価値連鎖（3）半導体産業、DX・グリーン 第10回 アパレル産業のグローバル価値連鎖（1）産業の歴史と構造 第11回 アパレル産業のグローバル価値連鎖（2）ファストファッション 第12回 アパレル産業のグローバル価値連鎖（3）エシカルファッション 第13回 国際経営とSDGs（1）CSR・SDGs・ESG 投資 第14回 国際経営とSDGs（2）デューディリジェンス 第15回 国際経営とSDGs（3）労働・人権・環境			
授業外学習(予習・復習)	配付資料の予習、レポートの作成を適宜指示する。			
成績評価の方法	期末レポート（50%）、その他授業中の提出物（50%）			
実務経験について	なし			

授業科目	比較経営論（隔年開講）		担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1, 2, 3年		授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】経営システムの多様性を知る 【概要】この講義では、様々な国の経営システムを比較します。まず、日本の経営（日本的経営）について解説した後、アメリカや欧州諸国、アジア諸国などの経営の特徴を検討します。各国の経営システムを説明する際に、それを生じさせた歴史的背景についても触れますので、歴史の話を苦にしない学生さんの受講を望みます。 【到達目標】歴史、政治、経済、文化、地理などの諸条件の相違が、経営システムの相違を生み出すことを理解する。また、経営システムの多様性や経路依存性について理解する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)			
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：経営システムを比較するための基本事項を説明する。 第 3 回 日本の経営（1）：戦後からバブル経済崩壊までの日本的経営の特徴を説明する。 第 4 回 日本の経営（2）：バブル経済崩壊以降の日本的経営の変容を解説する。 第 5 回 日本の経営（3）：トヨタ生産システムを中心に、生産システムについて講義する。 第 6 回 日本の経営（4）：日本的経営における組織・人的資源管理、および経営戦略の特徴を取り上げる。 第 7 回 日本の経営（5）：中小企業、特に中小工業の変遷について講義する。 第 8 回 日本の経営（6）：現代における日本企業の経営について考察する。 第 9 回 アメリカの経営（1）：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスについて講義する。 第10回 アメリカの経営（2）：アメリカ企業の組織、人的資源、経営戦略の特徴を解説する。 第11回 欧州の経営（1）：イギリス企業の経営システムについて講義する。 第12回 欧州の経営（2）：ドイツ企業の経営システムについて講義する。 第13回 欧州の経営（3）：フランス企業の経営システムについて講義する。 第14回 アジアの経営：アジア諸国の経営システムを概観する。 第15回 経営システムの多様性：「比較」、「多様性」、「経路依存性」などをキーワードに、これまでの講義内容を振り返る。			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）			
実務経験について	なし			

授業科目	会計情報論	担当者	宗田健一
	〔履修年次〕 2, 3 年いずれも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	【テーマ】 会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る 【概要】 会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。 各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' Network））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。 【到達目標】 会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 宇田川庄二『中小企業の財務分析』（第5版）同友館（予定）		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明 第 2 回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINET の使い方、アニュアルレポートの入手等） 第 3 回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み 第 4 回 会計学と財務情報・非財務情報について 第 5 回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROE など） 第 6 回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第 7 回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第 8 回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第 9 回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など） 第 10 回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第 11 回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第 12 回 時系列分析（2社以上） 第 13 回 同業他社比較分析（2社以上） 第 14 回 学生による分析報告とディスカッション 第 15 回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。		
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート（70%）		
実務経験について	なし		

*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

*講義担当者のコロナ対応、出張などで、遠隔授業（オンデマンド形式）などを用いる場合がある。

授業科目	企業行動科学	担当者	竹中啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3 年いずれも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
テーマ及び概要	【テーマ】 個人や組織の意思決定について考える。 【概要】 行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。 この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、人や企業の意思決定がどのように行われているのかについて考え、実際の意思決定の特徴やその問題点について取り上げる。また、組織（集団）としてより良い意思決定を行うための方法についても考えていく。さらに、これらに関連して、リーダーシップ論や動機づけ理論についても触れる予定である。 【到達目標】 個人や組織の意思決定プロセスを理解する。リーダーシップや動機づけに関する主要な理論を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の概略を説明する 第 2 回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第 3 回 人の認知能力と意思決定：簡単な実験を通して人の認知能力について考える 第 4 回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第 5 回 集団での意思決定は本当に優れているのか：集団での意思決定の問題点を考える 第 6 回 組織の意思決定の質を高める方法について 第 7 回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第 8 回 映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定について映画を通して考える 第 9 回 意思決定に関連するその他の問題点について 第 10 回 インセンティブシステム（動機づけ理論）：動機づけ理論とその問題点について説明する 第 11 回 リーダーシップとは何か：リーダーシップの考え方の変化とその問題点について説明する 第 12 回 上司と部下の関係を考える：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 13 回 物事を理解するレベル：物事を理解するレベルには段階があり、理論から実践へつなげることの大事さを知る 第 14 回 大学での学びについて考える：「卒業式は自由な人生の終わり」ではないという意味を解説する 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は 1 回目の講義で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士				
	〔履修年次〕	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)							
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第 3 回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。 第 4 回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。 第 5 回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。 第 6 回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。 第 7 回 M&A と戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&A について解説する。 第 8 回 M&A と戦略的提携（2）：事例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。 第 9 回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。 第 10 回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。 第 11 回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における 2 つのアプローチを紹介する。 第 12 回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。 第 13 回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。 第 14 回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。 第 15 回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）							
実務経験について	なし							

授業科目	経営工学		担当者	倉重賢治			
	〔履修年次〕	1,2,3 年	授業外対応	適宜対応			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化 【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。 【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。						
(1)テキスト	(1)	プリント					
(2)参考文献	(2)	圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』, 朝倉書店					
授業スケジュール	第 1 回 序論：経営工学とは 第 2 回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3 回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4 回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5 回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6 回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7 回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8 回 作業分析：作業者の動作を分析する 第 9 回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値 第 10 回 投資計画 2：プロジェクトの価値 第 11 回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第 12 回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 13 回 最短経路：一番近い道を探す 第 14 回 配送計画：配達順序を決める 第 15 回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)						
実務経験について	なし						

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重賢治
	〔履修年次〕 1,2,3 年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応 〔必修/選択〕 選択	適宜対応 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理 【概要】 この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。 【到達目標】 ・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：テーブル操作 第 5 回 Access の操作：クエリの作成 第 6 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 7 回 Access の操作：データベースの設計 第 8 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 9 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布のデータ処理 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の検定 第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と検定 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (60%) + 期末試験 (40%)		
実務経験について	なし		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重賢治
	〔履修年次〕 1,2,3 年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応 〔必修/選択〕 選択	適宜対応 〔授業形態〕 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング 【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：演算子と関数 第 3 回 VBA の利用：変数 第 4 回 VBA の利用：条件分岐 第 5 回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6 回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7 回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8 回 VBA の利用：マクロの記録 第 9 回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10 回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11 回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12 回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13 回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14 回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	財務会計論		担当者	岡村雄輝			
	〔履修年次〕 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2 単位	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】財務会計の全体像を理解する 【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論、簿記論の学修を前提として講義を展開します。 【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。						
(1)テキスト	(1) 桜井久勝『財務会計講義』（第 24 版）、中央経済社。						
(2)参考文献	(2) 『新版 会計法規集』（第 12 版）、中央経済社。						
授業スケジュール	第 1 回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制 第 2 回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造 第 3 回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表 第 4 回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性 第 5 回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計 第 6 回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準 第 7 回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書 第 8 回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権 第 9 回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価 第 10 回 有形固定資産：減価償却、減損、リース 第 11 回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費 第 12 回 負債：負債の範囲と区分、引当金 第 13 回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示 第 14 回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表 第 15 回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。						
成績評価の方法	期末レポート 100%						
実務経験について	なし						

授業科目	情報論特講		担当者	岡村俊彦, 倉重賢治			
	〔履修年次〕	1,2,3 年	授業外対応	講義前後に適宜対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】						
	ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。						
	【概要】 ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。 表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。						
	【到達目標】 実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。						
	(1)テキスト	(1)	FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」、プリント				
	(2)参考文献	(2)	特になし				
授業スケジュール	第 1 回	概要説明：授業概要と評価方法の説明					
	第 2 回	ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説					
	第 3 回	コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説					
	第 4 回	コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説					
	第 5 回	インターネットとネットワーク：TCP/IP の設定、ルータの役割の解説					
	第 6 回	表計算ソフトの活用 1：Web クエリのグラフ作成					
	第 7 回	表計算ソフトの活用 2：フィルターとピボットテーブル					
	第 8 回	コンピュータが扱う数字 1：2 進数と 16 進数					
	第 9 回	コンピュータが扱う数字 2：負の数と実数					
	第 10 回	情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号					
	第 11 回	シミュレーション 1：シミュレーションとは					
	第 12 回	シミュレーション 2：エクセルを用いたシミュレーション					
	第 13 回	意思決定：エクセルのソルバー					
	第 14 回	データ分析：エクセルのデータ分析					
	第 15 回	まとめ					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	レポート（30%）＋授業中の課題（40%）＋期末試験（30%）						
実務経験について	なし						

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1, 2, 3年		授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。 【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにはいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)			
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3 回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。 第 4 回 標的市場の選択：STP について解説する。 第 5 回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、諸飛車の購買行動について理解を深める。 第 6 回 競争分析：「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7 回 グループ・ワーク（2）：STP を使ってみよう。 第 8 回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 9 回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第10 回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第11 回 流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。 第12 回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。 第13 回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。 第14 回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。 第15 回 グループ・ワーク（3）：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）			
実務経験について	なし			